

〈 家庭教 〉

平成 29 年 9 月 20 日

P T A 会員の皆様

世 田 谷 区 立 千 歳 小 学 校
校 長 渡 邊 克 元
P T A 会 長 小 川 真 穂
家庭教育学級委員長 志 村 陽 子

平成 29 年度 第 1 回家庭教育学級 開催報告書

初秋の候、P T A 会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
さて、今年度「第 1 回家庭教育学級」を、7 月 8 日に開催いたしました。

講師には、常世晶子（とこよしょうこ）さん、茂木亜希子（もぎあきこ）さんをお招きし、「子ども“声で伝える力”を育む『発声授業』とコミュニケーション」というテーマのもとご講演頂きました。

常世さん、茂木さんの子どもたちの『声』を育てることに対する思い、現役ママアナウンサーならではの経験談や実践法をお話いただき、参加者も一緒に体を動かし、声を出し、子育てまたは自分自身に活かせる「発声授業」となりました。文章の中の単語の意味を意識（イメージ）することで伝わり方が違うこと、「良い声、聞きやすい声」を具体的なアニメのキャラクターの声にたとえたり、大好きなおやつは何かを言わせた時の声を「その声よ！」と教えるなど、実践できるコツを多くご教授いただきました。また、子どもを褒めて自信をつけさせることで発言できる手助けになることなど、親として考えさせられるお話も頂き、大変充実した内容となりました。

以下に内容の一部をご報告いたします。

「子どもの“声で伝える力”を育む『発声授業』とコミュニケーション」

■講師のお二人のご紹介

『こどものためのアナウンスブック 発声のきほん』著者。
「こどもアナウンス発声協会」の代表として、全国の小学校などで発声授業を行うボランティア活動を展開中。幼児教育トレーナー（小学館ドラキッズなど 4 社の資格）の発声テキスト執筆。朝日小学生新聞、ラジオ日本などメディア掲載・出演多数。



☆常世 晶子（とこよ しょうこ）さん

元フジテレビ系列局アナウンサー。

TBS「SASUKE」「KUNOICHI」リポーターなど出演多数。大手芸能プロダクション「トップコート」のタレント育成講師。

☆茂木 亜希子（もぎ あきこ）さん

元 NHK 長野放送キャスター。保育士資格を取得。

絵本ナビゲーターでおはなし作家でもある。一時保育グループそらいろの種代表。著書『そらとぶまくらとおつきさま』など。

■ 講師お二人の自己紹介、「こどもの発声教育活動」をスタートされた経緯

- ◇ 日本語には、「わかりやすく伝える」ことが出来る音声表現の『技術・方法』があるが、「読み・書き・そろばん」を重視してきた日本の学校教育には、「日本語の音」を専門的に学べる機会はほとんどなく、日本では現在、アナウンサーなどごく一部のプロにしか知られていない。「日本語の音声表現」を学ぶと、伝える力が格段に上がり、ディスカッション・ディベート・プレゼンテーションなど、重要な場面で役立つ。
- ◇ 世の中に「子ども向けの発声テキストがほとんど存在しない」という事実を知り、まずは「こどものためのアナウンスブック 発声のきほん」を発売。その後、日本語の音を学ぶ為に必要な教材を次々と開発。
- ◇ 声のプロのアナウンサーが全国の学校で子どもたちに直接「発声授業」をすることが、子どもたちの『声』を育てる一番の近道だと考え、有志による活動を続けておられる。

■ 発声練習

- ◇ 腹式呼吸・滑舌・鼻濁音・無声化・アクセントについて分かりやすく解説、実践。
- ◇ 準備運動としてだれでもできる簡単なストレッチを実践。
- ◇ 音楽に合わせて講師のお二人の発声の後に、参加者たちも発声。
- ◇ 原稿の読み方を教わり、句読点で呼吸するのではなく、意味が伝わるように区切る（講師のあとに続き読み方を実践）。

■ 参加者からの質問（抜粋）

- ◇ 読み聞かせのコツを知りたい
 - 読み聞かせは8割が選書で決まる。絵が大きく鮮やかなものが、大人数向き。高学年にはメッセージ性があるものがよいが、朝なので明るいテーマのものを。次のページが先にばれてしまわないように、本の持ち方と立ち位置に気をつける。
- ◇ 緊張しないためには？
 - 練習をたくさんすることが何より大事。大丈夫という自信がもてる。
- ◇ 普段は普通に話せるのに、音読になると声が小さくなる。どうしたらよいか？
 - 本を読むときに下を向くとどが詰まって声がでない。声が遮られてしまうので、本で隠れないように前を向く。ダメなところを注意するのではなく、良いところをほめる。

■ まとめ

- ◇ 「自分の想いを伝えるために、まずは声を鍛える」そして、「自分の声を好きになる」
- ◇ 自分にとって楽で気持ちいい音と相手にとってわかりやすく気持ちいい音はちがう。
- ◇ お父さん、お母さんは一人一人が子どもの言葉の先生である。
- ◇ 自信を持って多くの人に自分の声で想いを伝えて欲しいという講師の思いは、子を思う親の私たちと同じ。

以上

■参加者の感想（アンケートより抜粋）

- ことばひとつひとつの意味を理解して相手に伝える大切さを知った。しっかりと声を出して発音することを心がけようと思った（1年生、女子）
- 声を出す練習には注意は不要で、ほめることが大事だと教えてもらえてよかった。たくさん素敵な言葉を子どもに伝えていきたいと思った（1年生、女子）
- 子どもの見本になっていることを意識したいと思った。声の印象で伝わり方が違うことを子どもに伝えたい（1年生、女子）
- 身近な悩みだった読み聞かせや音読のコツは、すぐに活用したいと思った（1年生、男子）
- 命に関わること以外の子どもへの指導はなるべく褒めて育てたいと思った（1年生、女子）
- 子どもと一緒に気持ちを作りながら、伝えることを意識して楽しく！（1年生、男子）
- 言葉づかいは大切だと思った。ふだんの生活の中でもきれいな発音で子供に接したい（1年生、女子）
- 音読の時、（孫が）普段と違い声が小さいので、どうしたら大きな声で読めるようになるかといつも考えていたところ、とてもいいアドバイスを頂けた。「何が好きかを答えた声で、それぞれ、その声よ…！」の方法を実践していきたい（1年生、男子）
- お年寄りに聞かせるように話してみようと思った（1年生、女子）
- 子どもへの話し方に気をつけたい（1年生女子、3年生男子）
- 読み聞かせは選書。次のページ側に立ち、本の持ち方に気をつける（1年生、女子）
- 気持ちよく通る声の出し方を、身体を使ってレクチャーしてくださり、良い声が出せるようになった（2年生、男子）
- 子どもが宿題で音読をしている時に、読む姿勢と良い発声を心がけるようアドバイスしてあげたい（2年生、男子）
- 声を出すのが楽しくなりそうです！！（2年生、男子）
- 声を出す時の姿勢など、普段気にしていなかったのが良かった（2年生、女子）
- 子どもにも教えてもらったように本を読んであげようと思った（2年生、女子）
- 絵本をもっと丁寧に読んであげたい（2年生、女子）
- 自分の声を意識して出すことで、声がどんどん変わっていくことを実感できたので、相手に伝えるということ意識して声を出し、話していけたらと思った（2年生、女子）
- 発声のコツと文章読みのコツは違うということ、言葉や文の意味をイメージして読むということ学んだ（2年生、女子）
- 子どもに対しきれいな日本語を使うようにしたい（2年生、男子）
- 子どもに対する言葉づかいを見直そうと思った。言葉って大切！！（2年生、女子）
- 言葉の一つ一つを大切に発声して行こうと思った（2年生、男子）
- 子どもの音読をいい加減にしていたことを反省した。発声の練習をすることで、人前で自信を持って堂々と話せると思う（2年生、男子）
- 普段意識せずに誤った発声や話し方をしていることにたくさん気付かされた。子どもへの話

- し方を、気を付けて実践してみたい (2年生、女子)
- 同じ内容でも発声の仕方で格段に違う。相手に伝わる印象も変わってくるので、日々のコミュニケーションでも話し方に気を付けていきたい (2年生、女子)
 - 仕事で話す時に早速意識したい。子どもたちにも教えてあげたい (3年生、男子)
 - 発声の練習と舌の体操は実践したい。イメージしながら話すこと、一文字目をはっきり発音することなど、たくさん学べた (3年生、男子)
 - 自信を持って話すことも重要だと思った。一文字目をしっかり発音することを意識してみようと思った (3年生、男子)
 - 親子ともに話すことに人一倍苦手意識があるので、いつも懂れているアナウンサーの方々のお話を聞いて、すぐにできる具体的なことをたくさん教えていただけてとてもためになった。1月の読み聞かせを目標に実行し、成長を楽しみにしたい (3年生、女子)
 - 読み聞かせの時に気を付けてみようと思うポイントが聞いて良かった (3年生、男子)
 - 人前で話すことが苦手なので、何かヒントが欲しくて参加した。イメージをする。お年寄りに話すように。練習をたくさんする。どれも役立てられそう (3年生、男子)
 - 話す時の姿勢の違い。イメージをしながら話すことの効果。表現の力について、子供に腹式呼吸で伝えたいと思った (4年生、女子)
 - 普段から腹式呼吸でしっかりと発声して、美しい日本語で子供に話しかけたいと思った。2才半の子の滑舌が良くなく、何をしゃべっているか分からないことがたまにあり、親の私のはっきりと話しかけて行こうと思っていたところに、この講演に参加できてとても良かった (4年生、女子)
 - 自分の耳に響かせて発声練習して行きたい (4年生、女子)
 - 相手に伝えやすい日本語について、楽しく学べ、実践できそうだった (4年生、女子)
 - 読み聞かせボランティアに向けて、発声から準備してみようと思う (5年生、男子)
 - 自分が楽で気持ちの良い声と、人が聞いて気持ちの良い声は違う。言葉のイメージを持ち、相手に届ける気持ちが大切だと聞き、コミュニケーション=思いやりの気持ちなのだと思えて思った (1年生男子、5年生女子)
 - 相手に伝わる声の出し方はとても大事だった (5年生、女子)
 - 音読をする時の、声を出すきっかけ作りについて教えてもらえてよかった (5年生、女子)
 - 腹式呼吸だけでなく、文章のイメージ・内容を表現することが、文章を読む上で大切という点を、子どもにも伝えたいと思った (5年生、女子)
 - 発声だけでなく、大人が正しいイメージで言葉遣いや発音できていれば、子供が真似をしてくれるのだと思った (1年生男子、5年生男子)
 - 日頃自分が発している言葉が子どもの発育に影響しているのだと思い、気をつけようと思った (3年生女子、5年生男子)
 - 子どもの音読を、もう少し姿勢や読み方に気を付けて見てみようと思った (6年生、女子)
 - 子どもに苦手と思わせない、褒めるということが大事だった (6年生、女子)

平成 29 年度 第 1 回家庭教育学級
実施報告書

平成 29 年度千歳小学校 P T A

家庭教育学級委員会 第 1 グループ

目 次

1.	学級の実施概要	3
2.	学級のねらい	3
3.	講師紹介	3
4.	学級の全体構成	4
5.	講演内容	4
1)	講師の活動内容紹介	4
2)	講義内容	4
3)	実践によるワークショップ	5
4)	まとめ	7
5)	質疑応答	7
6.	報告者所見	7
7.	補足	8

1. 学級の実施概要

- 日 時：平成 29 年 7 月 8 日(土)9:30～11:00
- 場 所：千歳小学校 専科棟 1 階 BOP 室
- テーマ：「子どもの“声で伝える力”を育む「発声授業」とコミュニケーション（『子どものホンネに耳をすまそう、たくさん語ろう』）」
- 講 師：常世 昌子（とこよ しょうこ）さん、茂木 亜希子（もぎ あきこ）さん
- 来 賓：世田谷区社会教育指導員 平田先生
- 参加者：P T A 会員 65 名（子ども 14 名）、千歳小学校校長、千歳小学校 P T A 会長、家庭教育学級委員

2. 学級のねらい

2020 年からの教育改革で重視されている「声を伝える」技術は、既に多数の小学校でも行われている「発声授業」でも取り入れられている認められた技術である。実際に声で伝えるプロとして実践の場で活躍してきた講師が、子供たちが直ぐにでも実践できる「声で伝える・伝わるテクニック」を分かり易く講義すると共に、声に関わる「心の成長とコミュニケーション」について実践形式で紹介する事で、保護者も子供たちも明日からの生活の中に取り入れて貰う事をねらいとする。

- － 一人前で上手に話したい
- － 自分の気持ちをうまく言葉で伝えたい
- － コミュニケーション能力をつけたい、プレゼンなどの場に役立てたい
- － 子どもに自信を付けさせたい

この学級を通し、子ども達そして保護者達のこの様な思いに応えて行く事が目的である。

3. 講師紹介

- 常世 昌子（とこよ しょうこ）さん
元フジテレビ系列アナウンサー。各種民放番組のリポーターなどテレビにも多数出演。大手芸能プロダクションのタレント育成講師も務める。
- 茂木 亜希子（もぎ あきこ）さん
元NHK長野放送局キャスター。保育士資格を取得。絵本ナビゲーターでおはなし作家でもある。一時保育グループそらいろ主代表も務める。著書は「そらとぶまくらとおつきさま」等。
「こどものためのアナウンスブック発生のきほん」を共著。「こどもアナウンス発生協会」の代表として全国の小学校などで発声授業を行うボランティア活動を協働で展開している。複数の民間企業で採用されている資格である幼児教育トレーナーの発声テキストも執筆している。その他、メディア掲載および出演も多数の実績がある。また、共に小学生を育てる母であり、常世さんは千歳小学校に子供を通わせている保護者でもある。

4. 学級の全体構成

実施内容	実施者
学級開始	家庭教育学級グループ1 司会担当
開始のご挨拶	千歳小学校校長、家庭教育学級委員会長
学級のテーマと講師ご紹介	家庭教育学級グループ1 司会担当
講演開始	講師：常世さん、茂木さん、
自己紹介、活動内容紹介	同上
講義	同上
実践によるワークショップ	講師および参加者全体
まとめ	講師：常世さん、茂木さん、
質疑応答	講師および参加者全体
終わりのご挨拶	社会教育指導委員 平田先生、PTA会長
学級終了	家庭教育学級グループ1 司会担当

5. 講演内容

1) 講師の活動内容紹介

常世さんおよび茂木さん共に元アナウンサーであり、それぞれ、テレビ局に所属していた時代の様子や担当していた番組、業務の内容について紹介があった後、女性としてのライフステージの進捗と共に、子育てに専念していた時期から再度職業を持つに至る経緯、元アナウンサーという経歴を生かした新たな活動への展開等について具体的なエピソードと共に自己紹介頂いた。

この様な経歴や経験を生かし、現在はお二人で活動を行っている。各地の小学校で行っている発生の指導方法などについて、実際の活動現場の写真等を交えながらご紹介頂いた。また共著が、幼児教育トレーナーの公式テキストとしても採用されており、今後は、発声を通した幼児教育の講師を育成し増やして行く為の活動に取り組んでいる。

2) 講義内容

両講師より以下の内容について教えて頂いた。発声のプロである講師お二人による、実際の発声や参加者への問い掛け、プロジェクターへの写真等の投影を交え、会場一体型・全員参加型といった形式での講義形態であった。

なぜ発声授業が必要なのか

日本語のアクセントの特徴、母音の無性化、鼻濁音（だく音/半濁音）こういった事が現状の学校教

育の中では具体的な指導が十分行われていない。こう言った現状の中で、昨今の日本の学習指導要領においても、「日本語による表現やディスカッションの習得と向上」がテーマとして含められるに至った。昔から人類共通の理解として、「生まれた赤ちゃんは言葉を耳から聞いて覚える事で言葉を話せるようになる」。また、日本では古くより「読み書きそろばん」といった教育方針が生きてきた歴史的な基盤も存在する。今一度、正しい日本語の発声をしっかりと自分の耳から意識して聞き取ることで、その先に、これらの発声を自分の言葉として自分の口から発声し、より豊かな自己表現をできる様になり、ひいては、今後ますます日本人に求められるであろうコミュニケーション能力の向上に繋がるものである。だからこそ、今、発声授業というものが必要なのである。

子どもたちの心に向けて

子どもの心の教育は「引き算と足し算」であると言われる。即ち、「叱る方法」と「褒める方法」の組み合わせであるが、発声授業を含めた話し方の教育においては、「足し算」に特化して進めるものである。子どもは話し方や発声に関して、褒められた時の吸収力や成長率は目覚ましいものがあり、各小学校等の活動の場においても子どもたちを通して目の当たりしている事実である。特に、子どもにとって大人の言葉がどれほど重要であるか、その影響の大きさと深さについて保護者を含めた大人全体が再認識しなければならない。耳から入った大人の言葉は、すぐに子どもたちの口から言葉として出てくるもの。

子ども達の心が言葉や言葉の教育から受ける影響を踏まえ、まずは大人から日々の日本語の言葉、発声を大事にして欲しい。

3) 実践によるワークショップ

以上の講義内容を踏まえ、実際に参加者が日々の会話などの場で取り入れられる様、実践によるワークショップが行われた。ワークショップでは、我々・家庭教育学級委員や御来賓も含め、会場に参加した保護者、子ども全員が参加した。講義中は全員着席で聴講したが、ワークショップでは全員が起立し、口元だけでなく体全体を使った形での実践内容で進められた。

①柔軟体操

体が硬くては発声もしっかりできない。より遠くへ多くの方に届く発声を行うためには、口や喉元だけでなく体全体をほぐして柔らかくする必要がある。参加者も全員起立し体全体をストレッチする柔軟体操を行った。

②顔のストレッチ

体全体が解れた所で、次は発声のためには要と言える顔に焦点をあて集中的なストレッチを行った。普段行わない表情筋を動かすもので、講師からの確認により、既に筋肉痛の様な感覚がある実感を参加者全員が痛感する結果となった。

③舌筋の強化

更に、発声に不可欠の舌の筋肉を鍛えるための動きを参加者全員で行った。

④腹式呼吸

日常生活では胸式呼吸になりがちであるが、より遠くへ響く発声の為には腹式呼吸が不可欠であり、意識してお腹で呼吸する腹式呼吸を全員で練習した。

⑤発声についての理解

まず、発声の練習を行う前段階の理解として、人間の声には、「声帯を使う声」と「響く声」に分かれる事を教えて頂いた。子どもにも分かり易い例として、それぞれの声をアニメ「ドラえもん」の登場人物で挙げるならば、「声帯を使う声」はジャイアンやスネ夫であり、「響く声」はしずかちゃんやできすぎ君である、という例えに、子どもも含めた参加者全員が納得した理解を得られた。そして、それぞれの声に関して、講師お二人より実際の発声によりお手本が示された。

⑥実際の発声体験

いよいよ参加者も発声レッスンとなり、まず、講師が母音表について説明し母音表を使って参加者も発生の練習を体験した。

⑦発展的な表現練習

基礎的な発声練習を実施後、更なる発展的な実践練習として、季節の言葉を使った表現練習へと進んだ。春夏秋冬、それぞれの季語となるポイントの言葉を、聞き手に響く形で発声するには、話し手本人がそれぞれの言葉と背景となる季節のイメージを持って発声する事が重要である。これにより、聞き手の心にまで届く表現ができる発声となる。

⑧上級の発声練習

更に、上級レベルの発声練習として参加者全員で早口言葉による実践練習を体験した。

⑨ニュース原稿練習

講師より「ニュース原稿 夏」が配布され、ニュース原稿を使った仕上げの実戦練習を行った。ポイントとして以下の点が示された。まず、息継ぎと言う物は、文章の意味合いに影響を及ぼす行動である事、一方、句読点は、文章における意味のまとまりとは完全に一致はせず、文字群全体としての視覚的な区切りの役割の物である。よって、発声における息継ぎと文章中の句読点とは必ずしも一致しない事を教えて頂いた。また、声の高さについては、伝える情報の重要性に応じて、重要なポイントは声を高め、相対的に重要性の低い部分は声を低める形で、全体を通じて統一する。これにより、聞き手は情報全体を把握すると共に特に重要なポイントを逃さず把握することができる点を教えて頂いた。参加者も実際に原稿を読み上げ、聞き手に響かせることを意識した発声を体験練習した。

4) まとめ

聞き手に響く声、より良い表現や発声とは、すなわち相手の心に届く声である。話し手自身が自分にとって気持ちの良い音＝発声と、聞き手にとって分かり易く気持ちの良い音＝発声は必ずしも一致せず、違うものだと知る事が大事である。相手の心に届く発声を行うためには、聞き手が気持ちの良い音となるためには、どの様に発声すれば良いかを意識する事が不可欠である。この学級を通し、日々、相手にとって気持ちの良い音を探すという事を生活の中で自然に取り入れて欲しい、との講師からのメッセージがあった。

5) 質疑応答

Q 1. この講義中、講師お二人はずっと腹式呼吸を行われていたのでしょうか？

A. その通りです、腹式呼吸の発声でないとマイクにも声は乗りません。

Q 2. 音読になった途端、声が小さくなる子どもに関してどうすれば大きな声で音読できるようになりますか？

A. 子供は、音読での「話し方」を作らないといけないと思込んでいる事が多いです。好きな事を話しているときの「子ども自身のまんま」で良い、とアドバイスする事をお勧めします。

Q 3. 自分の気持ちの良い音と相手の気持ちの良い音を一致させる事が、話し手の心持ち一つで実現させる事が実際に可能なのでしょうか？

A. 心持ちさえあれば実現する事はできます。まずは好きになる事、文章読み自体のテクニックはその次の段階になります。

Q 4. 子供への読み聞かせのポイントはなんですか？

A. 実は選冊でほぼ決まってきます。あと、読み手が横読みの練習を行う事、そして、本の持ち方とページをめくる方向が肝心です。

Q 5. 大勢の前で話すと緊張して手が震えるのでアドバイスを下さい。

A. 練習あるのみです。練習日数が本番での落ち着きと安心感に比例して直結します。

6. 報告者所見

今回、土曜日での開催となり、お母様方のみならずお父様方の参加も見られ、また、児童やその兄弟など子ども達の参加も実現した。ご講演頂く講師についても、家庭教育学級委員会1グループの1メンバー（司会進行担当）と千歳小学校における同級生の保護者同士という関係性から、今回の講師抜擢に至った経緯もあり、報告者自身が今回初の参加（報告者は千歳小学校1年生の保護者である）ではあるものの、過去の例に照らして何かと新たな試みとなった点が多かったと整理している。もっとも特筆すべ

きは子どもも含めた参加者全員参加型であったと言う点である。講義や講演といった場合、一般的には参加者は聴講生として椅子などに着席し、正に先生のお話を聞く、といったイメージであったが、今回の学級内容は上述の通り、終始、参加者も能動的に参加する事で成り立つ学級内容であった。この事は学級自体の有効性を大きく高めたものと見受けられ、その事は質疑応答にて顕著に現れていた。講義及びワークショップ全体を通した各論点に関連した様々な質問が参加者より挙げられ、各質問に対し他の参加者も高い興味をもって聞いていた様子であった。終了時間の関係から質疑応答は中断されたものの、時間さえ許せばより活発な展開が行われたであろうと想像する。

一方、反省点も多々あり、当日の会場であったBOP室での準備作業や具体的な運営作業、外部講師との連携、機器操作の事前確認など、我々の第1グループで実施した反省会の中で顕在化した反省点については平成29年度の第2回学級および平成30年度学級での改善として繋げる。

7. 補足

参加者によるアンケート集計結果については添付資料を参照のこと。

以 上

2017年7月8日(土) 家庭教育学級委員会

「子どもの“声で伝える力”を育む『発声授業』とコミュニケーション」

■当日参加者実績

○出席人数 大人 65名/子ども 14名 (申込人数: 大人 73名/子ども 17名)

※申込数に対する出席率: 大人 89.0% 子ども 82.4%

○学年別出席人数

1年生 16名、2年生 15名、3年生 11名

4年生 8名、5年生 8名、6年生 6名

■アンケート提出枚数 60枚 (アンケート提出率 92.3%)

■アンケート集計結果

1. 講演会の内容はいかがでしたか

とても良かった…46名

良かった …10名

普通 …3名

良くなかった …1名

※アンケート未提出者を含む参加者総数の86.2%が「とても良かった、良かった」と回答

2. 講演を聴いて、今後の生活に役立ちそうなことがありましたら、お書きください。

※()は子どもの学年、性別

○ことばひとつひとつの意味を理解して相手に伝える大切さを知った。しっかりと声を出して発音することを心がけようと思った(1年生、女子)

○声を出す練習には注意は不要で、ほめることが大事だと教えてもらえてよかった。

たくさん素敵な言葉を子どもに伝えていきたいと思った(1年生、女子)

○子どもの見本になっていることを意識したいと思った。声の印象で伝わり方が違うことを子どもに伝えたい(1年生、女子)

○身近な悩みだった読み聞かせや音読のコツは、すぐに活用したいと思った(1年生、男子)

○命に関わること以外の子どもへの指導はなるべく褒めて育てたいと思った(1年生、女子)

○子どもと一緒に気持ちを作りながら、伝えることを意識して楽しく!(1年生、男子)

○言葉づかいは大切だと思った。ふだんの生活の中でもきれいな発音で子供に接したい(1年生、女子)

○音読の時、(孫が)普段と違い声が小さいので、どうしたら大きな声で読めるようになるかといつも考えていたところ、とてもいいアドバイスを頂けた。「何が好きかを答えた声で、それぞれ、その声よ…!」の方法を実践していきたい(1年生、男子)

○お年寄りに聞かせるように話してみようと思った(1年生、女子)

○子どもへの話し方に気をつけたい(1年生女子、3年生男子)

- 読み聞かせは選書。次のページ側に立ち、本の持ち方に気をつける。自分にとって楽で気持ちのいい音と相手にとって分かりやすく気持ちのいい音とは違う（1年生、女子）
- 気持ちよく通る声の出し方を、身体を使ってレクチャーしてくださり、良い声が出せるようになった（2年生、男子）
- 子どもが宿題で音読をしている時に、読む姿勢と良い発声を心がけるようアドバイスしてあげたい（2年生、男子）
- 声を出すのが楽しくなりそうです！！（2年生、男子）
- 声を出す時の姿勢など、普段気にしていなかったのが良かった（2年生、女子）
- 子どもにも教えてもらったように本を読んであげようと思った（2年生、女子）
- 絵本をもっと丁寧に読んであげたい（2年生、女子）
- 自分の声を意識して出すことで、声がどんどん変わっていくことを実感できたので、相手に伝えるということ意識して声を出し、話していけたらと思った（2年生、女子）
- 発声のコツと文章読みのコツは違うということ、言葉や文の意味をイメージして読むということ学んだ（2年生、女子）
- 子どもに対しきれいな日本語を使うようにしたい（2年生、男子）
- 子どもに対する言葉づかいを見直そうと思った。言葉って大切！！（2年生、女子）
- 言葉の一つ一つを大切に発声して行こうと思った（2年生、男子）
- 子どもの音読をいい加減にしていたことを反省した。発声の練習をすることで、人前で自信を持って堂々と話せると思う（2年生、男子）
- 普段意識せずに誤った発声や話し方をしていることにたくさん気付かされた。子どもへの話し方を、気を付けて実践してみたい（2年生、女子）
- 同じ内容でも発声の仕方で格段に違う。相手に伝わる印象も変わってくるので、日々のコミュニケーションでも話し方に気を付けていきたい（2年生、女子）
- 仕事で話す時に早速意識したい。子どもたちにも教えてあげたい（3年生、男子）
- 発声の練習と舌の体操は実践したい。イメージしながら話すこと、一文字目をはっきり発音することなど、たくさん学べた（3年生、男子）
- 自信を持って話すことも重要だと思った。一文字目をしっかり発音することを意識してみようと思った（3年生、男子）
- 親子ともに話すことに人一倍苦手意識があるので、いつも憧れているアナウンサーの方々の話を聞いて、すぐにできる具体的なことをたくさん教えていただけてとてもためになった。1月の読み聞かせを目標に実行し、成長を楽しみにしたい（3年生、女子）
- 読み聞かせの時に気を付けてみようと思うポイントが聞けて良かった（3年生、男子）
- 人前で話すことが苦手なので、何かヒントが欲しくて参加した。イメージをする。お年寄りに話すように。練習をたくさんする。どれも役立てられそう（3年生、男子）
- 話す時の姿勢の違い。イメージをしながら話すことの効果。表現の力について、子供に腹式呼吸で伝えたいと思った（4年生、女子）

- 普段から腹式呼吸でしっかりと発声して、美しい日本語で子供に話しかけたいと思った。
2才半の子の滑舌が良くなく、何をしゃべっているか分からないことがたまにあり、親の私のはっきりと話しかけて行こうと思っていたところに、この講演に参加できてとても良かった（4年生、女子）
- 自分の耳に響かせて発声練習して行きたい（4年生、女子）
- 相手に伝えやすい日本語について、楽しく学べ、実践できそうだった（4年生、女子）
- 読み聞かせボランティアに向けて、発声から準備してみようと思う（5年生、男子）
- 自分が楽で気持ちの良い声と、人が聞いて気持ちの良い声は違う。言葉のイメージを持ち、相手に届ける気持ちが大切だと聞き、コミュニケーション=思いやりの気持ちなのだ改めて思った（1年生男子、5年生女子）
- 相手に伝わる声の出し方はとても大事だった（5年生、女子）
- 音読をする時の、声を出すきっかけ作りについて教えてもらえてよかった（5年生、女子）
- 腹式呼吸だけでなく、文章のイメージ・内容を表現することが、文章を読む上で大切という点を、子どもにも伝えたいと思った（5年生、女子）
- 発声だけでなく、大人が正しいイメージで言葉遣いや発音できていれば、子供が真似をしてくれるのだと思った（1年生男子、5年生男子）
- 日頃自分が発している言葉が子どもの発育に影響しているのだと思い、気をつけようと思った（3年生女子、5年生男子）
- 子どもの音読を、もう少し姿勢や読み方に気を付けて見てみようと思った（6年生、女子）
- 子どもに苦手と思わせない、褒めるということが大事だったと思った（6年生、女子）

3. 今後、取り上げて欲しいテーマ

- 絵本講座、読み聞かせ講座…10名
- 今回の講演を子どもたちに…4名
- 反抗期、思春期の子供とのかかわり方…2名
- 英語教育について…2名

以下、1名ずつ

- 子どもの悪い言葉づかいへの対処方法
- 子どものほめ方、叱り方
- きょうだいの子育て法、食育
- メンタルフォローに関して
- ゲームとの付き合い方について
- 整理整頓について
- 子どもの水難事故、怪我などの対応方法

以上